

## 茨城県の子育て支援の トップランナーを確固たるものに 10周年を迎えた「ままとーん」

特定非営利活動法人ままとーん  
(茨城県つくば市)  
平成16年度子育て支援基金「地方分」助成団体

### DATA

〒305-0062 茨城県つくば市赤塚641-1  
TEL&FAX: 029-838-5080  
<http://www.tsukuba.or.jp/mamatone/>

本誌第36号(2006年冬号)のチャレンジレポートで掲載した特定非営利活動法人「ままとーん」。第36号では、子育て情報ステーションモデル事業として、フリーペーパー「ままとーん#しゃあぶ」の発行について取り上げていました。

3年前から現在に至るまで、「ままとーん#しゃあぶ」はどのように変遷してきたのでしょうか。また、「ままとーん」はどのように発展してきたのでしょうか。

お話を伺ったのは第36号にも登場していただいた代表理事の鷲田美加さんです。

### もう一度「ままとーん」 のおさらいを

つくばといえば、筑波大学をはじめとした研究学園都市をイメージされる方も多いでしょう。2005(平成17)年8月にはつくばエクスプレスが開通し、秋葉原〜つくば区間が最短で45分になりました。つくば駅周辺は現在も施設の充実が図られているところですが、到着後地上に上がるととてもきれいな大空が待っていました。晴天だったこともありすが、電線が全くなかったので素晴らしい爽快感でした。

バスターミナルから路線バスに乗り、西大通りを南に進みます。「ままとーん」をめざす車窓からは、整然と区画整理された町並みを見ることが出来ます。至るところに公園も整備されており、路線上の洞峰公園のバス停でも子連れのお母さんたちがベビーカーを引きながら降車していききました。



④「ままとーん」事務所前で  
⑤「ままとーん」室内

もう一つ目を引くこととしては、自転車通行のためのスペースも広めに確保されていることです。小さな子どもたちが自転車を運転しても安心ですし、ベビーカーを使用する時も余計な心配は無用です。緑を囲みつつ、インフラ整備をしている印象です。最寄りのバス停で降車して歩いていると、程なく幹線道路の交差点に着きます。その一角に「ままとーん」があります。

### 10年の変遷

「ままとーん」は今年で活動開始から10年を迎えます。「ままとーん」とは、とても特徴的な名前です。一度聞いたら二度と忘れないインパクトがあるようにも思えます。鷲田さんにお聞きしました。

「ママ」というのはもちろんお母さんのこと、「とーん」というのは音色です。かわるお母さんたちが、音楽を奏でるように楽しい子育てができることを目的に設立しました」と言います。2002(平成14)年には特定非営利活動法人の認証を受けました。当時は法人として運営していくことがとても大変だったそうです。

「予算や決算などの管理、会計の知識がなく、お母さんというのはどちらかというとその分野が苦手ですし、経験者もいなくて本当に苦労しました。慣れるまでの3年



つどいの広場の常連さんの一部。  
とてもにぎやかです

くらいは大変でした。でも、スタッフの1人がその分野を勉強して担当になってくれました。これまでも地域の子育てサークルというのはいろいろあったけれど、PTAのように「卒業すればおしまい」といった感じで、世代交代というものがありませんでした。せっかくの集まりを継続させていきたいという思いが根本にあり、地域に根ざして「継続」していくためにも法人化は効果的でした。

### 発展していった 「つくばウェルカムパーティー」

これまでさまざまな事業に携わってきた「ままとーん」。その中に「つくばウェルカムパーティー」があります。このパーティーは、つくば市に転入してきたばかり

の乳幼児をもつ方や、在住歴は長いけれど初めて妊娠して子育てについては初心者という方、ママだけでなくパパも含めてつくば市のことを知ってもらい、友達づくりの場を提供することを目的として毎年開催しているものです。

もともとは、「ままとーん」が単独で企画運営していましたが、その後つくば市の委託事業となり、今年度から市内の子育て支援拠点が連携しての開催になりました。今まで行政と築いてきた関係としての実績ということでしょう。鷲田さんは「一団体のイベントが、連携しての全学的な取り組みへと変わっていった、といううれしい変化でした」と言います。

最近、「婚活」のためのパーティーの開催についてよく耳にします。「ままとーん」では、結婚後の妊娠、出産、そして一連の子育て期というライフイベントに際して、ママ同士、家族同士の出会いのためのパーティーを開催してきたということは、ニーズに応えることを先取りしてきたということだと思います。これは、日本の社会の将来を見据えた素晴らしい取り組みといえます。

### つくば市の子育て事情や特性 つどいの広場の事業者としての視点

「ままとーん」では、つくば市からつど

いの広場事業の委託も受けています。冒頭でもふれましたが、つくば市は学園都市です。鷲田さんは「研究者の方が在住し、どちらかという和高学歴の親御さんが多いように思います。ただ、市内で暮らしはじめから日の浅い方もいて、人間関係が希薄なところもあるかもしれません」と説明してくれま

す。乳幼児期の子育ては特にプレッシャーがかり、ストレスもたまりやすいといわれている中で、慣れない土地での子育てになると必要以上にストレスをためかねま



ちびとーんの林で遊ぶ子どもたち  
ちびとーんの林の中で焼き出し中

ん。「利用者にもいわゆるモンスターパーアレントのような方もいるように思いますが、むしろその方々を被害者という



「ええ方もしています」と鷺田さんは続けま  
す。

そのような方々の支援のために、つくば  
市には子育て支援ネットワーク「かるが  
も・ねっと」があります。こちらは、市内の  
子育て支援団体等のネットワークですが、  
当然「ままとーん」も参画しています。

「かるがも・ねっと」は、大学の研究  
者、保健師、保育士、児童相談員、教員、  
ファミサポの職員などで構成され、情報を  
共有するための交換会や学習会の開催、ま  
た市内の子育て支援イベントのカレンダー  
づくりなどを行っています。一つの団体だ  
けでは解決できないことがあったとして  
も、ネットワーキングにより全体で取り組  
むことができるのは強みです。

### 「ままとーん#しゃあぶ」のその後

福祉医療機構の子育て支援基金「地方  
分」の助成を受けて、「ままとーん#しゃ  
あぶ」の第14号から第17号まで1年分4回  
発行しました。鷺田さんは「助成を受けて  
いた1年間で、地産地消的な記事を掲載す  
ることがコミュニケーションづくりに役に立つと  
いうことを再認識でき、その後の編集方針  
が決まっていきました」と振り返ります。

以前は、1号あたりの発行部数が300  
0部でしたが、その後工夫を重ねて現在で



「ままとーん」設立10周年記念で  
市原つくば市長と対談

は16ページのフルカラーで1万部の発行に  
なりました。無償配布のフリーペーパーと  
しては、かなりの部数を発行するまでに成  
長しています。

助成時の第17号では、市原健一市長と  
「ままとーん」のお母さんとの意見交換会  
をまとめた「ともにつくる！子育てにやさ  
しい街」という特集を掲載しました。「市  
原市長はかなり子育て支援に熱心な方で  
す。「ままとーん」の総会にも来ていただ  
いたこともありますし」と鷺田さん。

この11月には設立10周年記念号が発行さ  
れましたが、5年前からのつながりによっ  
て市原市長との特別座談会が掲載されてい  
ます。「利用者の立場を大切にす民間の  
活力、アイデア、努力が行政の施策をより  
良いものにしてくれるのではないでしょ  
うか。もっとオープンにして、地域のいろ  
いろな人が参加できるように、お母さん達  
が子育てをしていて楽しいと思えるような地

域づくりをしたいですね」と市原市長は結  
んでいますが、まさに「ままとーん」はつ  
くば市の地域づくりに一役買っています。

### 子育て情報誌

### 「ままとーん」のその後

事業の軸であるこちらでは、担当者が  
実体験に基づいたルポを掲載しています。  
当事者目線になっており、手にとる読者に  
も共感が得られます。また、毎号しつかり  
とした特集テーマを決めており、その特集  
はとても読みごたえのある質の高い記事と  
なっています。ちなみに最新号の特集テー  
マは「自転車でつくばへおでかけしよ  
う」。子育て世代にはママチャリは必需  
品。冒頭でも市内には自転車の乗りやす  
い道が多いとふれましたが、エコのため、健  
康のため、子どもと楽しむためにも自転車  
生活を取り入れていきたいものです。

また、つくば市及びその周辺地域の企業  
からの広告も掲載されています。単なる広  
告ではなく、記事広告になるように工夫さ  
れています。そのようなきめ細やかな編集  
方針は本誌も見習うべきところですよ。

### 子育て支援にも

### コーチングを取り入れて

「ままとーん」では福祉医療機構のほか



いばらき子育てネットワーク・交流セミナーの一コマ

にも助成を受けていますが、今年度は財団法人こども未来財団と協働するかたちで、この9月下旬に「いばらき子育てネットワーク・交流セミナー」を主催しました。午前中は講演とワークショップ、午後は県内の子育て支援の事例発表と情報交換会という内容でした。講演では、西村雅司さん（財団法人生涯学習開発財団認定コーチ）を迎え、「子育てママをエンパワメントするコーチングスキル」伝えたいことを伝えるために」というテーマでお話がありました。

すが、傾聴した後が大切だと再認識しました。こちらのことを「伝える」ときに何をすべきか考えさせられました」と参考になったようです。

### 地域で主体的に活動していく つくスタ2009にも

10月から11月にかけて開催された「つくスタ2009」。これは、つくばスタイル縁日というもので、地域の資源を発見し、その魅力を伝えあう「しくみ」です。「みんなで見つけ、みんなで伝える」というテーマで、つくばで暮らし、働き、活動している方と一緒に、そのスタイルを紹介する場としていました。

「ままとーん」では、期間中に地域内の各所で開催された「その場で縁日」と、市内の公園に一堂に会した「顔見せ縁日」のどちらにも出店していました。「その場で縁日」では前ページで紹介したつどいの広場での通常の活動に加えて、つくばスタイル館にある古民家での「出張つどいの広場」を開催し、「顔見せ縁日」では子育て用品のプチフリーマーケットや小学生による絵本の読み聞かせが行われました。

この出張つどいの広場は、スタッフの野島真奈美さんのアイデアで始まりました。「当日は雨が降ってしまったのですが、16

組32名の親子が来てくれました。古民家の和の雰囲気は気持ちを落ち着かせてくれるもので、参加された方にも好評でした」ということで、今後も開催していくようです。古民家での活動といえば、「いきいきチャレンジ！」でも前号の特集記事で、山梨県北杜市の「えがおをつなげて」の取り組みを掲載したところです。茨城県でも古民家での活動をされているところをみますと、地域の独自の資源を活用しつつ事業を運営していくことはどの地域でも参考となるものであり、今後他の地域でも広がっていく可能性は大いにあります。

このように地域に根つき、地域の資源を活用しながら次々と新しいことに取り組んでいく「ままとーん」。これからも地域のみなさんとともに斬新なハーモニーを奏でていくものと思います。



④つくばスタイル縁日

⑤古民家で出張つどいの広場